

静岡県病害虫防除所の活動

(静岡県病害虫防除所 池田二三高)

静岡県病害虫防除所は、1996(平成8)年県内の5 か所の農林事務所内にあった病害虫防除所が統合され、農業試験場の本館内に設置された。職員数は所長を含めて研究職7名、事務職2名であったが、平成11年度から所長は農業試験場病害虫部長と兼務となった。

主な業務は、病害虫の発生予察事業、病害虫の防除対策、農薬の安全使用対策である。研究職職員は一連の事業業務のほかに、発生予察の改善・開発に関する研究、新規あるいは難防除病害虫の発生生態や防除に関する研究も行っている。事務職員は、事務関係のほか、農薬の流通量調査、ゴルフ場農薬使用量調査、病害虫防除基準の編集、防除員の委嘱事務などを行っている。

1 病害虫の発生予察

(1) 調査内容と調査方法

予察対象の作物は19種(イネ,ムギ,ダイズ,カンショ,バレイショ,カンキツ類,カキ,ナシ,チャ,トマト,スイカ,ダイコン,キャベツ,ネギ,タマネギ,ニンジン,レタス,イチゴ,キク)であり,栽培期間中合計65種の病害虫の発生予察情報を作成し,提供している。温室メロンは本県の主要な作物であるが、非常に多くの調査労力が必要のため未実施である。

予察基準圃場は、農業試験場の圃場に設けられ、イネ、ムギ、ダイズ、カンショ、バレイショ、キャベツ、ダイコン、ネギ、タマネギ、キクの栽培管理と調査は病害虫防除所職員が定期的に行うが、チャは茶業試験場に、果樹類は柑橘試験場に設けられており、それぞれの試験場で栽培管理と定められている病害虫の調査を行っている。

巡回調査は、前記 19 作物について合計 330 か所の 現地圃場で実施している。栽培の主要時期に月1回の 調査であるが、病害虫の多発生があり注意報の発表が 検討される時には随時調査回数を増やしたり、さらに 事前に選定してある合計 240 か所の準調査点の中か ら、該当する作物圃場で調査を行っている。

The Activity of Plant Protection Office in Shizuoka, By Fumitaka Ikeda

(キーワード:発生予察事業,静岡県)

リレー随筆

また、チャ、果樹、野菜、花では地区予寮圃場を18か所、イネでは防除適期決定圃を9か所設け、予察灯、フェロモントラップ、見取り調査を委託してデーターを得ている。また、JA職員からなる77名の病害虫防除員からも随時調査情報を得ている。

このように、現地の発生状況の把握につとめているが、病害虫防除所の統合により巡回地点が広域となったため職員よる調査点数の不足があること、それを補う委託業務は必ずしも十分機能していないことが問題点となっている。

(2) 予察情報の作成と提供

職員による予察基準圃場と巡回調査のデータ,委託 先からのデータ,過去のデータ,気象データなどによ り解析し月1回発生予察情報を作成し提供している。 発生予察情報の作成会議は,病害虫防除所,農業試験 場,茶業試験場,柑橘試験場,病害虫専門技術員,県 庁植物防疫担当の職員で構成されている。

情報は、1997 (平成9) 年から郵送をやめて、情報が即時に誰でも入手できるように FAX 情報サービスシステムを採用した。予察情報の他に、その根拠となった圃場データ、予察灯やフェロモントラップなどのデータも公開している。2000 (平成12) 年4月からはインターネットのホームページを設けている。また、普及センターが運営管理する EI ネットにも提供している。

本県の発生予察情報の特徴は、主要病害虫について は防除要否の判断基準として、要防除圃場率を設けて ある。この数字は、現在および過去の圃場データ、気 象条件、栽培条件、作物の成育状況、長年の経験から 検討して決定している。

2000 年度の FAX 情報サービスを利用した合計 1,421 件であり約 48%がチャ関係情報である (表-1)。 予察情報を入手した経済連、農業共済は各支所に、農薬卸商は直接多数の農家にあらためて文書で提供していること、地元の新聞社が毎月報道することもあり、農家が直接 FAX 情報サービスへアクセスする数は必ずしも多くないと思える。インターネットには約5,000 件のアクセスがあり、非常に有力な情報提供手段となっている。

(3) 病害虫発生予察法の改善・開発研究

病害虫防除所の研究職職員は、農試、柑試、茶試の研究枠にとらわれず発生予察法の開発研究を行うことになっている。

これまで、国の事業援助を受けながら、自動カウント式フェロモントラップの開発、イネのモミ枯れ細菌

項		4)]	5	(5	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
案	内	9	6	8	8	8	6	3	2	3	2	3	()	58
概	況	6	8	1()	11	12	7	5	7	8	5	(5	6	91
<u>(' :</u>	物	2	4	1()	16	4	6	1	4	5	()	3	1	56
野	菜	3	2	(5	2	1()	4	5	4	6	4	()	1	47
1		30	129	79	154	115	82	24	18	5	4	24	25	689
果	樹	16	35	49	41	56	34	10	8	1()	2	3	2	266
1	文	11	22	17	13	17	11	15	8	7	9	4	2	136
注意	5幸最	2	4	4	18	5	(6	8	1	6	()	()	()	5.1
20	つ他	1	1	1	2	4	4	4	1	4	1	()	1	2.1
ň	Ŧ	80	211	184	265	231	160	75	53	54	27	43	38	1,421

表-1 2000 年度病害虫 FAX 情報サービス利用状況

病の発生予察法の改善、アメダスを利用したウンシュウミカンのチャノキイロアザミウマ、ハダニ、黒点病の発生予察法の開発に取り組み大きな成果を上げている。静岡県としては、今後も発生予察に関する研究は病害虫防除所で担当していくことになっている。

2 病害虫の防除対策

静岡県では、現地の防除対策は、まず病害虫防除所が指導を行うことが前提になっている。そのため、目常の診断業務はもちろん、難防除対策、臭化メチル代替え技術対策などを対応している。また、これらに伴う研修会、講習会は毎年15~20件にのほっている。

現地で新規に発生した病害虫についてはまず病害虫 防除所が対応し、緊急対策を指導するかたわら発生生態や防除法の研究も実施している。短期間で解決できない病害虫に関しては、それぞれの専門試験場で課題化して研究を行っている。これまでに、新規発生のイチゴの角斑細菌病では、発生生態の解明、薬剤による防除対策、ドリップ潅水を使用した耕種的防除対策を確立した。近年発生が多くなったイチゴのオンシツコナジラミは、イチゴの品種間差が大きな要因であることを明らかにしている。また、花や野菜に使用されている臭化メチルの代替え技術の指導、ミカンキイロアザミウマ、タバコガ、オオタバコガの発生生態の解明や防除対策においても大きな成果を上げている。現在は、多発傾向にあるトマトの黄化葉巻病について発生生態や防除対策の研究を進めている。

3 農薬の安全使用対策

農薬の取り締まり業務,ゴルフ場の農薬保管調査は 農林事務所が担当している。農薬の流通量調査は経済 連と17の餌商,ゴルフ場農薬使用量調査は92場について行っている。

また,各地で開催される農薬の安全使用に関する研



病害虫防除所発行の年報および発生予察情報や分担執 筆を行った各種資料

修・講習会は病害虫防除所が担当し、2000年度は7回で参加は約300人であった。

防除対策,農薬使用については,県の方針は「病害虫防除基準」に示されこれに基づいて防除指導が行われているが,この病害虫防除基準の作成には,執筆は専門試験場,専門技術員の協力を得ているものの,編集,執筆,発行,説明会まで病害虫防除所が一貫して行っている。また,各地の主要作物の栽培暦の作成会議に出席して指導を行っている。

県の植防協会から、主要作物の病害虫の指導者向けのテキストである「農作物診断ガイドブック」を1988 (昭和 63) 年から発行し、その後改訂版を発行し好評を得ている。今春内容を大幅に追加・改訂した増補版を出版したが、病害虫防除所として多くの病害虫について分担執筆を行った。また、これまでに新規あるいは多発生となった特定の病害虫については、その都度早期発見と防除対策の資料としてリーフレットの作成を行い提供している。